

## 読書の春 ～武漢市の本屋のいま～

大分市武漢事務所 賈 芳

日本では「読書の秋」という言葉があるように、中国では「読書の春」といいます。4月は万物が蘇生し、春爛漫、気温もちょうどよい読書の季節です。国際的にも毎年4月23日を「世界図書・著作権デー」と制定し、「世界本の日」とも呼ばれています。今回は本にまつわる、武漢市の本屋事情についてご紹介します。

### いまの本屋市場

「2020中国図書小売市場報告」によると、2015年から2019年の間、中国全体の図書小売額は毎年10%以上アップしてきました。2020年はコロナの影響で、図書小売市場も初めて打撃を受け、上半期の売上は13%ダウンしました。下半期で多少増加しましたが、全体では昨年と比べ5%ダウンという結果になりました。さらに、ロックダウンの影響により実店舗の閉店や倒産が目立ちます。2019年の実店舗とECサイトの販売比率は3：7に対して、2020年は2：8まで下がりました。コロナの影響もありますが、決め手はやはり価格です。実店舗の最大割引率15%オフと比べ、ECサイトは平均で40%オフです。さらに、ライブ配信や販促イベントになると80%オフになる時もあります。

実店舗は、固定費の影響で価格の面ではECサイトに対抗できないことから、生き延びる為に様々な工夫をしています。ただ本を売る場所ではなく、図書館であり、カフェであり、撮影スポットであり、憩いの場所として、伝統文化を体験する場所として、多種多様な顧客に対応し、非日常を味えるような、ストーリー性と独自性を持ったテーマパークに変身しています。

定期的に、作者サイン会、音楽会、読書会、漢服体験会等の様々なイベントを企画しているほか、店舗の内装も工夫して、本棚の並べ方から椅子の一つまで写真映えを意識して配置するなど、集客に力を入れています。

### いまをときめく森林書店 「時見鹿書店（ときみしかしよてん）」解放公園支店

武漢市内で事業を展開している「時見鹿書店」が、今年4店舗目となる支店を解放公園内にオープンさせました。解放公園は武漢市内にある最大の緑地公園で、休日は武漢市民の憩いの場としてにぎわっています。

この解放公園支店は、他の3店舗の現代的な雰囲気と違い、中国伝統建築である四合院<sup>注</sup>を意識した作りで、青い瓦と赤い柱、シンプルながらも古典的な美しさが備わっており、タイムスリップしたような空間です。敷地面積7000㎡、園内はカフェ、本屋、読書スペース、伝統文化体験館等、一日遊んでも飽きない、本と中国伝統文化のテーマパークです。



「時見鹿書店」 - 入口

## 読書の春 ～武漢市の本屋のいま～

大分市武漢事務所 賈 芳

コロナの影響で、私がよく通っていた本屋は閉店してしまいましたが、武漢市内では新しいスタイルの本屋が続々とオープンしています。いまの私たちの生活スタイルに合わせるために、24時間営業の本屋まで現れています。ただ本を買う場所から、日常を離れ、自分だけの時間が作れる大切な場所になっています。

注：四合院（しごういん）とは、四つの面に家屋があり、あるいは四つの面が壁に囲まれた家屋のこと。四合院の「四」の字は、東西南北の四面を表し、「合」は取り囲むという意味。



「時見鹿書店」 - 伝統文化体験館  
(漢服体験)



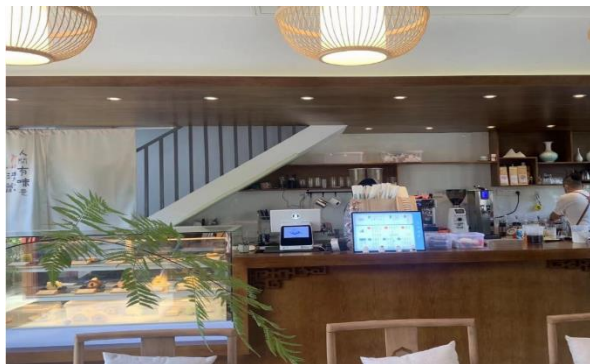
「時見鹿書店」 - 屋外レストラン



「時見鹿書店」 - 読書スペース



「時見鹿書店」 - 本屋、読書スペース



「時見鹿書店」 - カフェ

※写真は武漢事務所スタッフ撮影